

## 早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	大山 一樹 ( おおやま かずき )
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 2年
発表年月 または事業開催年月	2022年 10月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会第48回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	大山一樹
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	大人におけるインターネット等の依存的使用とストレスの関連の記述的検討
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p><b>【目的】</b></p> <p>本研究では、大人におけるインターネット等の依存的使用について、職場ストレスとの関連から記述的に検討することを目的とした。</p> <p><b>【方法】</b></p> <p>「PsycINFO」, 「PubMed」, 「Web of Science」を用いて論文の電子検索を行った (2022年3月23日)。検索ワードとしては、「addiction」AND “workplace stress” AND “internet”を用いた。その結果、収集された22編の論文のうち、重複したものを除外し、(a) インターネット等の使用を対象としていること、(b) 学術論文であること、(c) 仕事を行っている社会人を分析対象としていること、の適格基準を満たす5編の論文を抽出した。また、ハンドサーチによって収集した適格基準を満たす25編の論文を収集し、合計30編の文献を対象とした。</p> <p><b>【結果・考察】</b></p> <p>インターネット等の依存的使用とストレスの両方を測定している論文8編のうち、算出可能な6編の効果量<math>r</math>を算出し、概観した。その結果、インターネット等の依存的使用とストレスの間に有意な弱い正の相関から中程度の正の相関が認められた。このことから、大人において、インターネット等の依存的使用が高いほど、ストレスの程度も高くなることが示された。そのため、大人のインターネット等の依存的使用に対して、ストレスへの適切な対処を行うことが有効である可能性があると考えられる。また、本研究では、職場において業務と関係ないことを、インターネット等を用いて行う問題を想定していたが、インターネット等を用いて際限なく仕事を行う問題もあることが示唆された。このことから、大人におけるインターネット等の依存的使用に関して、仕事への依存を指すワーカホリックの側面から理解することも可能であると考えられる。さらに、ストレスについて、職場ストレスのほか、知覚されたストレスや、インターネット等の使用による抑うつ感や頭痛などの症状を指すテクノストレスも測定されていることが示された。以上のことから、大人におけるインターネット等の依存的使用について、使用における問題やストレスの程度を考慮することによって、ニーズに合わせた支援が可能になると考えられる。</p>	

※無断転載禁止